

■第1回 見附市立学校配置等検討委員会 会議録

日 時：令和6年5月31日(金) 午後7時

会 場：見附市役所 大会議室

出席委員：17人

遠藤委員、保科委員、坂田委員、鈴木委員、山田委員、梅本委員、大橋委員、
三本委員、高井委員、目黒委員、武石委員、岡山委員、後藤委員、今井委員、
小山委員、小林委員、小尾委員

欠席委員：1人

井上委員

事務局：渡邊教育長、近藤教育部長兼教育総務課長、佐藤学校教育課長

【事務局】

それでは、定刻となりました。ただいまより見附市立学校配置等検討委員会を開会いたします。

次第2 開会にあたり、見附市教育委員会教育長の渡邊茂夫よりご挨拶申し上げます。

【渡邊教育長】

皆さんこんばんは。見附市教育委員会教育長を拝命しております渡邊茂夫と申します。見附市立学校配置等検討委員会の開会にあたりご挨拶を申し上げます。

本日は大変ご多用の中、検討委員会へのご出席を賜り心より御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

委員として委嘱させていただきました18名の皆様におかれましては、各分野でご活躍中のところお引き受けいただきました。重ねて感謝申し上げます。これからどうぞよろしくお願いいたします。

さて、平成の大合併の際、自律の道を選んだ見附市が将来にわたって持続可能なまちであり続けるために、その未来を託す子どもたちにはどんな力を身につけさせていくべきなのでしょう。また、それをより確実に実現できるのは、どのような学校なのでしょう。学校は子どもたちがこれからも時代をたくましく生きていく「生きる力」を身につけられるとともに、安全で安心して過ごせる場所でなければならないと考えます。

そして、児童生徒が「通いたい」「通ってよかった」、そんなふうに思えて、また、保護者の皆様からは「通わせたい」「通わせてよかった」、こんなふうに思っただけの場所にぜひしていただきたいものだと願っております。

市ではこれまで、全ての学校がそうであることをめざし、様々な教育施策や教職員の支援等に取り組んできました。

そして、各学校では「共創郷育」の理念のもと、地域や保護者の皆様とともに地域の特性、個性を生かした特色ある活動を推進し、その結果、一定の評価をいただける、そういったところを進めてきていただいたというように受け止めているところです。

しかし、急激な少子化が進行しております。その傾向は将来も続いていくことが見込

まれております。そのような中、今後もこのままでいいのか、そういう疑問や不安にきちんと向き合う議論をすべき段階を迎えているのではないかと考えているところでございます。

見附市は、昭和 61 年 4 月 1 日に西中学校が開校し、現在の小学校 8 校、中学校 4 校の体制となりました。以来 40 年ほど、学校のあり方そのものや配置等の見直しは行われてきておりません。

一方、この期間に、市の児童生徒数は半分にまで減少し、各学校の通常の学級数も大きく減少しており、児童生徒の学校における人間関係が以前よりも限定的になってきているのではないかと、そんなふうにも言えるところがあるのではないかと考えております。

また、児童生徒数の減少は教育に携わる教職員数の減少にも繋がります。学校の業務内容は学校規模の大小にはあまり関係がありませんので、教職員数の減少は教職員 1 人当たりの担当業務の増加、つまり負担の増加に繋がっている面もあります。

特に懸念されるのは中学校であります。教科ごとに専門の免許状が必要である中学校においては、免許状を持つ正規の教員を本来必要な人数だけ配置することが難しくなっている。その結果、学習指導にも大きな影響を及ぼすことも懸念されてくる。そういった状況もございます。

さらに、市内の各学校では児童生徒の安全安心の確保に大きく関わる校舎の老朽化が進んでおります。約半数が建築後おおむね 40 年以上経過しており、そのうち中学校 2 校はまもなく築 50 年を迎えようとしているところでございます。

このように、様々な課題が顕在化しつつある現状を踏まえ、昨年度は「5 年後 10 年後の教育環境を考える」をテーマとして、子育て世代の保護者の皆様や子どもたち自身の声をお聞きするタウンミーティングを 5 回にわたり開催いたしました。当委員会はその結果を受けて、設置させていただいたものでございます。

タウンミーティングでは、大規模校と小規模校それぞれの良さや課題、小学校と中学校それぞれが果たしている役割や今後果たしてほしい役割、また、学校を含む教育施設のあり方等たくさんのご意見やご指摘を頂戴いたしました。

市として目指すべき教育環境作りには、形を変えなくても工夫して実現できることもあると思います。また一方で、何らかの形を変えることでより実現しやすくなる、そういった部分もあると受け止めております。

コンパクトシティという大きな強みを持つ見附市であります。その各地から広くお集まりいただいた皆様には、それぞれのお立場から、まずは市全体から小学校と中学校のそれぞれについてどのような配置等を目指していくべきかなど、大胆に発想していただきながら、子どもたちのためのよりよい教育の場づくりに向けて、たくさんのご意見をいただきたいと願っております。

これからの見附市立学校配置等検討委員会が有意義な議論の場となりますようお願いいたしまして、大変長くなりまして恐縮でございますが、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。次第3 自己紹介に移ります。

(出席者(事務局含む)全員が一人ずつ自己紹介)

【事務局】

続きまして次第4 委員長選出に移ります。

本会の委員長は、見附市立学校配置等検討委員会設置要綱第5条第1項の規定により、設置要綱第3条第2項第1号に掲げる学識経験を有する者のうちから委員の互選により定めるものとされております。今回の委員会組織におきましては、学識経験を有する者として選出されている委員は、遠藤委員1人のみであることから、委員長は遠藤委員にお引き受けいただきたいと考えておりますが、皆様ご異議ございませんでしょうか。

(発言するものなし)

【事務局】

遠藤委員に委員長をお引き受けいただくことを承認される場合は、拍手をお願いします。

(拍手多数あり)

【事務局】

拍手多数と認めます。よって委員長は遠藤委員にお引き受けいただくこととなりました。遠藤委員よろしく願いいたします。

続きまして副委員長の選出に移ります。設置要綱第5条第3項の規定により、副委員長は委員長がこれを指名するとされております。遠藤委員長、副委員長のご指名をお願いします。

【委員長】

それでは、副委員長には葛巻地区ふるさとセンター長の保科英明様を指名したいと思います。保科委員よろしく願いいたします。

【事務局】

それでは遠藤様に委員長を、保科様に副委員長をお引き受けいただくこととして決定いたしました。遠藤委員長、保科副委員長、よろしく願いいたします。

【事務局】

続きまして次第5 諮問に移ります。

本委員会は、設置要綱第1条に規定するとおり、見附市立学校の適正配置、適正規模、その他目指すべき教育環境の整備に向けた取り組みに関して広く市民等の意見を聴取し、総合的な検討を行い、必要な提言を得るために設置される委員会です。

見附市教育委員会が本委員会に今後のご審議および提言を答申していただくことを求

める証として、諮問書を提出させていただきます。渡邊教育長、遠藤委員長、ご起立願います。

渡邊教育長、諮問書を遠藤委員長にお渡しください。

(諮問)

【事務局】

ありがとうございました。本委員会は教育委員会からの諮問を受理いたしました。

【事務局】

それでは、次第6 議事に移ります。

本日の委員会は、委員全18名のうち、1名欠席のご連絡を頂戴しており、本日17名のご出席をいただいて過半数の出席に達しておりますので、設置要綱第6条第2項の規定により、会議が成立しておりますことを報告いたします。

それでは議事に入ります。

設置要綱第6条第1項の規定により、委員長が議長となるものとされておりますので、ここからの議事進行は遠藤委員長にお引き受けいただきます。

また、遠藤委員長には一言御挨拶を頂戴したいと思います。遠藤委員長、よろしくお願いいたします。

【委員長】

改めまして、こんばんは。遠藤英和と申します。よろしくお願いいたします。

ご縁をいただいて、昨年5回にわたるタウンミーティングに携わらせていただきました。「5年後10年後の教育環境を考える」・・・そのことがテーマでした。見附市の目指すべき教育環境について協議していこうという取り組みでした。その中では、大人だけではなく児童生徒にも収音マイクを向けて、主体者としての見附市民、その見附市民が自らの描く教育環境をイメージし、意見交換を通してこれからの教育環境に実現可能性を含めた希望を見つけていこうという取組であったと思います。

私も実を言いますと、小学校の教員でした。そして、今学校を取り巻く社会環境として、渡邊教育長さんからお話のありましたとおり、人口減少、超少子化、それと高齢化。その傍らでIT活用とその対応、学校現場では人手不足。そして児童生徒の健康、安全確保と学校の防災対策。学習評価と学習内容の多様化と教師の働き方。児童生徒に目を向けてみるといじめ不登校問題。そして、行政に目を向ければ、自治体の財政事情と課題は山積しています。また、地域力の衰退であるとか、貧困対策であるとか、保護者の不安であるとか。これは子育てに関してのことですが。学校施設の校舎を含めた老朽化対策、子どもを取り巻く状況は、これらが顕在化し課題が複雑化しています。

しかし子どもたちには決して悲観的な人生を歩んでほしくないと思います。ここにいらっしゃる委員の皆様にもその点についてはご理解いただけるのではないかと推察しております。

では、先ほどいただいた諮問書に記載してあります諮問事項「見附市の小中学校の目

指すべき教育環境の整備と充実した学校教育に資するための見附市立小中学校の適正規模、適正配置等の目指すべき教育環境に関する基本的な考え方と実現に向けた方策」・・・長いですが、これらを検討するためにこれから各委員の皆さんと意見交換しながら各委員の考える方向性をできる限り習練しながら検討を重ね、見通しを持ちづらい先の先を見据えた条件下の最善策を探っていきたいというふうに思います。

そして、その集約結果を見附市教育委員会に答申してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日は、諮問内容に関わっての見附市の現状の理解を、事務局から用意いただいた資料を基に、その把握に努めていきたいと思います。しかし、実際に見たわけではないので、紙面上のデータです。理解がなかなか難しいかもしれませんが、数字が何を意味しているのかを私たち委員の中で咀嚼していきたいととらえています。

なお、本日ご参会の皆様、見附市を支える社会の作り手となるこれからの見附市民、それが今学校に通っている子どもたち、これから学校に通おうとしている子どもたちです。どうか子どもたちにとって一番いいことを掲げながら、実現可能性をもった選択肢が生まれますようご支援をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【委員長】

それでは、委員長に任命いただきましたので議事を進めて参りたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、次第の議事(1) 学校配置等検討委員会の運営について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは(1) 学校配置等検討委員会の運営について、説明させていただきます。

資料の1ページをお願いします。スクリーンの方も使用しますが、基本的には資料と同じですので、適宜見やすい方をご覧ください。

(1)学校配置等検討委員会設置の背景について。見附市の小・中学校では日々、児童生徒の歓声が響き、教室では笑顔があふれています。一方で、既に市の児童生徒数はピークであった昭和57年度における児童生徒数6,194人から令和5年度では2,813人と半数以下になっており、全国的に加速する少子化と施設の老朽化に伴う施設改修や時代に沿った生活様式の変化への対応といった教育課題に直面しております。

小学校では、小規模校の取り組みへの評価を受ける一方、保護者からの不安の声もいただいていることや、中学校2校の老朽化に伴う大規模改修の予定を抱えていることから、令和5年に、5年後10年後の教育環境をみんなで考える「タウンミーティング」を市全域で開催させていただき、子育て世代を中心とした保護者や地域の方々の声を聞かせていただいたところ、未来の児童生徒の学びの場である教育の質的充実を確保していくために、見附市の教育環境の形や学校のあり方を検討する時期に来ているという意見を多くいただきました。

そこで、将来を展望した見附市が目指すべき教育環境に関する基本的な考え方と実現

に向けた方策を幅広い見地から検討するため、見附市立小中学校配置等検討委員会を設置し、子どもたちにとって目指すべき教育環境の検討を開始することとしました。

委員の皆様には、見附市における市立学校の適正規模・適正配置等の目指すべき教育環境に関する基本的な考え方と実現に向けた方策を検討いただきたいと思います。

見附市の教育理念についてですが、見附市では「見附は今、個が輝くとき」を市民へのメッセージとし、基本理念に、「ふるさと見つけを愛する子どもの育成を目指します」、「世に役立つことを喜びとする子どもの育成を目指します」を掲げ、これに基づく4つの基本方針のもとに教育行政を行っております。

2ページをお願いします。

委員会で検討していただく際の基本的な立場になりますが、先ほどの市の基本理念を尊重していただきながら、「見附市の未来を託す子どもたちについてどんな子どもに育てほしいのかを前提として、そのような子どもが育つ学校のあり方について」、「見附市で育つ子どもたちについて、市として誰1人取り残さない学校教育を実現する学校のあり方について」、「平成の市町村合併の際に自律を選択したコンパクトな見附市だからこそ描ける市全体を考えた魅力ある学校のあり方について」、「子育て世代が見附市内のどこに住んでも満足感の高くなる学校のあり方について」検討していただけたらと考えております。それぞれの地域や所属としての思いもあろうかと思いますが、見附市の子ども全体のことを考えて検討して頂きたいと思います。

スケジュールについてですが、本日を皮切りに概ね7回程度の開催を予定しております。次回は6月27日木曜日を予定しております。月1回程度の検討委員会を行い、会議の進捗具合にもよりますが、来年の2月から3月に答申を行う予定としております。

学校配置等検討委員会の運営については以上となります。

【委員長】

ありがとうございました。それではここで質問を受けたいと思います。

ただ今運営についての説明を中心にありましたが、ご質問がありましたらどうぞ挙手願います。いかがでしょうか。

(発言なし)

【委員長】

それでは次の議事、見附市立小中学校の現状について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

次は、小中学校の現状について説明いたします。

3ページをお願いします。見附市の人口と児童生徒数の推移についてです。

見附市の人口推移ですが、国勢調査によると平成7年の43,760人をピークに、令和2年は39,237人まで減少しており、年代別人口の推移を見ますと0歳から14歳までの年少人口は、昭和50年までは4人に1人でしたが、令和2年の段階では8人から9人に1

人となっております。

4 ページをお願いします。見附市の人口推計ですが、国立社会保障・人口問題研究所の推計人口と見附市人口ビジョンともに、今後も人口減少が続くものとなっています。社人研の推計では西暦 2000 年、平成 12 年になりますが、39,237 人の人口が 2050 年には 26,906 人、31.4%減少するとなっています。

今年の 4 月に話題になりました日本創成会議が発表した「消滅可能性都市」は、20 歳から 39 歳の女性の数が 2020 年から 2050 年にかけて 50%以下に減る自治体を指しますが、見附市では 47.2%の減少と推計されています。なお、住民基本台帳における人口は平成 12 年に 44,445 人でしたが、令和 5 年に 38,408 人となり 6,037 人 13.6%の人口減となっております。

新潟県の小・中学校の状況を見てみますと、小学校の児童数では、新潟県が平成 12 年度から 31.6%減少しております。見附市でもほぼ同じぐらいの 33.1%の減少をしています。

中学校の生徒数は、新潟県が平成 12 年度から 37.6%減少し、見附市では少し上回る 39.4%、4 割弱の減少をしています。

学校数の推移を見てみますと、小学校の学校数では、新潟県が平成 12 年児童数の減少割合と同じく、31.6%減少しており見附市では増減はありません。中学校の学校数は、新潟県が平成 12 年度から 9.8%、1 割弱減少しておりますが見附市では増減がありません。

5 ページをお願いします。見附市の児童生徒数の推移について見ていきます。

まず、小学校についてです。昭和 61 年度に西中学校が開校し、現在の小学校 8 校、中学校 4 校の体制になってからの推移ですが、昭和 61 年度と令和 6 年度を比較しますと、児童数が半減しております。葛巻小学校だけは増加しておりますが、他の学校では 5 割から 8 割の減少が起きており、見附第二・田井・上北谷小学校では複式学級が編成されています。

6 ページをお願いします。中学校についてです。昭和 61 年度と令和 6 年度を比較しますと、小学校と同じく生徒数は半減しております。平成 12 年度には 4 つの中学校が同規模となりましたが、現在は見附中学校と南中学校は昭和 61 年度の約 3 分の 1 にまで減少しております。

7 ページをお願いします。令和 6 年度の市内の小・中学校の状況を見ていきたいと思ひます。画面の真中の図になりますが、昭和 61 年度と令和 6 年度の児童生徒数を各学校別に比較しています。左の表がちょっと見にくいかもしれませんが、普通学級数の比較と増減になり、約 38 年間で複式学級のある学校が 3 校に増えております。小学校では、全体で 38 学級の減少となっており、昭和 61 年度の見附小学校分が減少していることがわかります。中学校も 22 学級の減少となっており、中学校 1.5 校分が減少していることがわかります。

8 ページをお願いします。令和 5 年度生まれ、昨年の 4 月から今年の 3 月までに生まれた子どもが小学校・中学校に入学するときの状況を見ていきたいと思ひます。あくまでも転入転出転居等がないと仮定した場合の推計となります。

小学校入学時、令和 12 年度になりますが、名木野小学校が各学年 2 学級を維持できな

くなります。令和 12 年度は、令和 6 年度の児童数からさらに 25%減少することがわかります。

中学校入学時、令和 18 年度になりますが、南中学校が学年 1 クラスになり、今町中学校も学年 1 学級に近い状態になります。1 年生が 43 人ということで 2 クラスなっていますが、市外に通われる中学生や特別支援学校のことも考えると、ほぼ 1 学級に近いのではないかなというような状態です。この推計ですが、昨年度までの出生数が基になっておりますので、ほぼ確定している状況だということを認識いただけたらと思います。

9 ページをお願いします。児童生徒数が少ないことによる課題について見ていきます。

まず、学級数や教職員数が減ることによって学校運営上の問題が顕在化してきます。具体的には、クラス替えができず人間関係が固定化する、クラス内で男女の偏りが生じる、運動会・修学旅行等の集団行事やスポーツ実技や合唱・合奏などの実施に制約が生じる、授業で多様なものの考えを引き出しにくい、配置される教職員が少なくなるため 1 人当たりの業務が増加し、児童生徒に関わる時間が取りにくくなる、中学校では免許外指導の教科が発生することで適正な指導に影響が出るなどの問題が指摘されています。

また児童生徒への影響として、集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくかったり、協働的な学びの実現が困難、切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい、常に少数の環境にいることで教員への依存心が強まる可能性がある、などの問題が指摘されております。

10 ページをお願いします。参考までに、学校の適正規模に関する法令を見ていきます。

学校教育法施行規則では、小学校、中学校とも学級数は 12 学級以上 18 学級以下を標準とし、地域の実情その他特別の事情のあるときはこの限りではないとされております。

また、平成 27 年度に文部科学省の出した「公立小学校中学校の適正規模適正配置等に関する手引き」では、小学校は 12 学級以上、中学校は 9 学級以上を確保することが望ましいとされています。

11 ページをお願いします。

見附市の学校整備の基本方針についてです。小学校では「複式学級」を、中学校は教育効果向上を考慮して「適正規模」を目安として学校整備を行うとして、昭和 42 年から 61 年にかけて統廃合が行われました。

次に、学校施設の状況についてです。市の学校施設は昭和 40 年代後半から昭和 60 年にかけて建築されたものが多く、耐震化はされているものの老朽化が進んでおります。今後、老朽化した学校施設の修繕や改築に多額の費用が必要になると考えており、適正な維持管理について検討すべき時期を迎えています。市では、学校施設の機能性能レベルの維持向上と中長期的な維持管理等にかかるトータルコストの縮減および予算の平準化を図るために、壊れたら直す事後保全型の管理から計画的に補修メンテナンスを行う予防保全型の管理にすることで、築 90 年以上の長期間の使用を目指す「長寿命化計画」を策定し、令和 6 年度から名木野小学校の長寿命化工事を予定しております。

12 ページをお願いします。老朽化した施設の状況を見ていきます。

例えば、名木野小学校のプールですが、壁面老朽化により修繕が必要な状況にありますが、修繕費が多額のため修繕せず、隣接する市民プールを使用して授業を実施してお

ります。同じような例が見附第二小学校でもあり、上北谷小学校のプールを利用して授業を行っております。右側の写真は管理棟の壁面に雨水が浸水して膨れている状況です。

今町中学校の様子ですが、玄関のタイル剥離・不陸が発生しております。また今年3月の卒業式では、雨漏りが発生し、バケツを置いて対応しております。

南中学校の様子ですが、特別教室等の屋上煙突ではコンクリート劣化損傷が見られます。また、体育館外壁でもコンクリート爆裂による鉄筋の露出が見られます。

13 ページをお願いします。老朽化が進むことで、学校施設の維持補修費は増加傾向にあります。平成 25 年度頃から毎年 5,000 万円程度の維持管理費が必要な状況になっています。

見附市の中長期財政計画では、市の貯金にあたる財政調整基金が令和 12 年度になくなることが見込まれ、財政体質改善の取組を加速していく必要があります。

以上、市立学校の現状を見ていただきました。

【委員長】

はい、ありがとうございました。やっぱり資料はたくさんですね。パワーポイントの方、1 ページ目にまた戻していただいていいでしょうか。

それでは、通常ですと「ただ今の説明にご質問ありませんか」とお聞きすることになるんですけど、数字をながめただけでは何が課題かっていうのはなかなか見えてこないし、何を質問したらいいのかを考える時間も必要です。

実は、私はこういう司会をしながらいつも思うのですが、堅苦しい雰囲気になると中々話づらいこともありますので、ちょっと時間を取りたいと思っています。5 分ほど、せっかく委員として今日、隣り合わせた、隣同士になった皆さんで、感想も交えて、今のデータはどういうふうに見たらいいのか、どういうふうになっているんだとか、そういう炉辺談話をしていただければありがたいと思っています。その中で、もし質問事項が生まれるようであれば挙手をお願いします。後ほど聞きます。2 人か 3 人 1 組くらいですね。座ったままでいいです。隣同士でちょっとお話をさせていただきますでしょうか。よろしくお願いします。時間は、5 分経ったらアナウンスしますのでよろしくお願いします。

いいでしょうか、始めてください。

(委員同士で話し合い)

【委員長】

はい。ありがとうございました。ちょっと打ち解けられましたでしょうかね。

このちょっとした時間が大事なんですね。タウンミーティングの時もそうだったので、見ず知らずの人がいきなりグループを作って話し合えて、できっこないので。やっぱりちょっとアイスブレイキングはしなきゃいけない。これはいきなりの提案で申し訳ないのですが、この検討委員会、当然毎回やる柱はあるわけですが、話し合いの仕方として、時々というよりも意図的に、計画的に、そして必要に応じて委員さん方のグループワークも入れながら、こういう小集団ごとにも違ってくるような機会を持ち、委

員さん方の考えの共鳴できる部分や違っている部分や、そういうのを拾っていきながら、ちょっと考え方の方向性を見つけ、それをその後の協議の柱にしていきたいというふうに思っております。

よろしいでしょうか。今日はとにかく現状の理解が真っ先だと思いますので、自宅へ持って帰っていただき、この資料が何を意味しているのか、ここは一体どういうものなのか、例えば人口問題でも今現在明確に言えるのは15年先ですね。

出生数がわかっているんで、中学校3年生になったらどれぐらいになるかというのはわかるわけです、そのぐらいの。でも先の先は本当にわからない。それを破線でも点線でもいいですが、引きながら、将来的にどうなるのか、例えば学校の建物一つにしたって、我々の家を作るわけじゃない。本当に子どもにとっての快適空間にしてあげないといけないので。そこら辺も慎重に対応しなきゃいけないわけですが。課題がたくさんあります。

そこで、今の意見交換のときに出た積み上げでもいいです。それを質問に変えて言う勇気を持って、発言していただけたらありがたいと思っています。

まず、ここにある見附市の人口と児童生徒数の推移というのがあります。ここで何かご質問ありますでしょうか。3ページですかね。

はい、それでは次のページをお願いします。人口推計と人口ビジョンです。2050年までの見通しが記されたグラフになっています。

【委員】

すいません、世帯数は増えているんですよね、これは。棒グラフと折れ線グラフの方で、総人口は減っていつているんですよね。平成7年をピークにして。ということは、世帯数は増えているってことは結婚して夫婦になる方は増えているんだけど、完全に子どもが、生まれる数が減っているっていうふうに理解すればいいんですか。

【委員長】

はい。それでは事務局をお願いします。

【事務局】

はい。今ほどおっしゃったように、世帯数は右肩上がりで増えております。この分析ですが、基本的には核家族化が進んでいるのと老人世帯の1人世帯が増えているというふうに考えています。昭和40年、50年代くらいですと、まだ3世代同居家族というのは比較的多く見られたのですが、今はかなり少ない状況で、基本的には核家族化がすすんでいるので、世帯数が増えております。また、離婚数も増えておりますので世帯数が増えてきているのかなと考えています。

【委員長】

よろしいでしょうか。

【委員】

理解できました。

【委員長】

ちなみに、この人口問題研究所の推計では、2033年には1世帯当たりの人数が1.99人。つまり1世帯あたり2人を下回る、そんなような報告がされている。これはもうマスコミで流れている情報ですけど、空き家のこととか1世帯当たりの人数とか、そういう状況になるんじゃないかと。これも地域によって違うと思いますが。

それでは次のページをお願いします。いかがでしょうか。こんなこと聞いて、などはありませんので、どうぞ聞いてください。よろしいでしょうか。

(発言なし)

【委員長】

それではその次。特に見附市と新潟県の小・中学校の状況についての表になりますが、見て何かご質問があれば。はい、どうぞ。

【委員】

児童数は新潟県、見附市とも同じように減っています。中学校にいたっては新潟県平均よりも見附市の方が減少率は高い状況です。にもかかわらず学校数が、小学校に関してはマイナス31.6%ということで人口の減少率とほぼ一致していますし、中学校にしても減っています。にもかかわらず、見附市はそのまま何も学校数が変わらずにきた経緯というのは、何か理由があるのでしょうか。

【委員長】

それでは、お願いします。

【事務局】

特別、こう分析した、という訳ではないですけども、市として感じているのは、平成の大合併、市町村合併によってかなり学校の統廃合が進んだというのがあります。ただ、見附市は合併していませんので、そのままの体制が維持されたというのがまず大きかった。その後、やはり県内市町村で人口減少があるので、さらに同じような状況になって、また統廃合の流れが進んできたというふうに感じております。

【委員長】

はい、よろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【委員長】

はい。それではこのページはいかがでしょうか。

(発言なし)

【委員長】

はい、それでは次のページをめくってください。各学校の推移表になっています。いかがでしょうか。それではどうぞ。

【委員】

今、見附市では複式学級を行っている学校がいくつかあると思います。先ほど、学校数が減っていない理由を教えていただいたんですけど、複式学級で小規模を今の数でやると、光熱費などのランニングコスト、それから先生方の人件費的な問題だとか、こういったものはだいぶかかるものなのではないでしょうか。

【委員長】

はい、お願いします。

【事務局】

小規模校と人数が多い学校の経費の関係かと思いますが、基本的に学校の面積はそんなに大きく変わらないので、光熱費は同じようにかかります。効率的なことを言えば、確かに集約された方が市の財政的にはかなり有利といえますか、経費はかからない方向になります。人件費につきましては、教職員に関しては県が負担されておりますので市としてはあまり考慮すべきところはないのですが、こどもの人数によって先生の数が変わってきますし、当然、最低必要な人件費、例えば管理員ですとかそういうような方については、市が費用を出しておりますので、そういうベースのところではやはり費用はかかっていることになります。費用的な面で言うと効率が悪いと言ったらあまりよくないでしょうけれども経費がかかっているという現実があります。

【委員】

ありがとうございます。もう1点よろしいでしょうか。

国はコンパクトシティ化っていうのを進めておりますが、今町小学校は結構、範囲の広い学校で、三木の北の津蔵巻という地域、スクールバスで通っているというのは私が子どもの頃からそうだったようです。今、上北谷小学校さんとか見附第二小学校さん、どちらかというと街からの距離がございしますが、例えばスクールバスなどの検討は今までであったのでしょうか。そういった学校をコンパクトにすることに対して、地域の方の「それは困る。うちの地域に学校がなければ困る」みたいなそういう話が今まであったのでしょうか。

【事務局】

学校からの通学距離になりますが、基本的には小学校で4キロを目安として設定されております。それを超える区域についてはスクールバスということになっております。ですので、今現在、見附市でスクールバスが出ているのは、今町小学校区だけになります。ただ、冬季になりますと、降雪地域では非常に交通の支障がありますので、冬季については、見附中学校さんでしたり南中学校さんでスクールバスが出ております。小学校では柳橋地区などで冬季の交通支援をやっている例はありますが、基本的には今のところ今町小学校のみとなっています。

【委員長】

よろしいでしょうか。

【委員】

はい、ありがとうございました。

【委員長】

はい。その他このページについてよろしいでしょうか。

(発言なし)

【委員長】

それでは次のページをお願いします。中学校です。いかがでしょう。

(発言なし)

【委員長】

はい、次のページをお願いします。本年と61年度との比較で表ができあがっています。いかがでしょうか。

(発言なし)

【委員長】

はい、次のページへいきます。令和5年度生まれの子どもの小・中学校入学時の推計。いかがでしょうか。

(発言なし)

【委員長】

次のページ、をお願いします。これは児童生徒数が減少する、少なくなるということについての課題を列挙されたものです。はい、委員をお願いします。

【委員】

はい。現状について丁寧に説明いただきありがとうございました。

ただ、ちょっと気になったのは、現状なかなか厳しい数字が並んでいて、結果として

この少なくなることを課題っていうことに帰結していくわけですが、ただ、先ほどの委員の質問にも関連するんですが、これまで見附市が取り組んできた成果とか良さもたくさんあると思うんですね。

現状、例えばここにあるきめ細かい指導、魅力いっぱい为学校がこうやってリーフレットをつけられているのはそういった意味もあると思うのですが、そういったことの良さもこの検討委員会の中で意見を出していかないと、この課題を解決すればそれでいいという話し合いでは私はないと思っています。

今日は現状の理解ということなので、こういうような資料構成ということで理解してのですが、次以降についてはこういうような話し合いを通して、最初に教育長もおっしゃいましたし、この２ページにも書いてある自律を選択したコンパクトな見附市だからこそ描ける見附市全体を考えた魅力ある学校のあり方。この話し合いを通して見附の学校教育をどうように描いていきたいのか、こんなふうな学校教育を今回の話し合いとして実現していきたいというような意見が出てくるのが大切だと、今日の説明をお聞きして思いました。

繰り返しになりますが、そうなるためには、課題だけではなくて現状の良さもきちんと押さえておく必要があると思います。以上。

【委員長】

はい、ご意見をいただきました。そして今の示唆は、この検討委員会でまた今後取り扱っていきたい内容というふうに捉えています。事務局はいかがでしょう。

【事務局】

ありがとうございました。実はですね、今回の資料の中にそういう面も入れようかとも思ったのです。タウンミーティングをやった時には、１回限りの会議でしたので、そういう見附市が取り組んできたこういうみつばプランですとかオープンスクールですとか、そういうのも一緒に説明させていただいておりました。今回は何回かやらせていただくということで、ちょっと最初に説明すればよかったのですが、２ページの方に次のスケジュールということで、市の取組や意見交換を第２回でやりたいと思っておりまして、みつばプランですとかオープンスクールの役割というのをやろうと思っていました。

確かに言われるように、この資料の方にもうちょっと書き込んだ方がいいのではないかという意見もあったのも確かで、その点については漏らすことなく次回以降見附の取組みとまたそれを伸ばす方法もあるよ、というのはぜひ皆さんで考えていただきたいと思います。

【委員長】

はい、ありがとうございました。よろしいでしょうか。貴重なご提案をいただきありがとうございます。

次のページ行ってよろしいでしょうか。これは法案関連法令ですね。一応こういうの

が根拠になっているということですね。このページいかがでしょうか。

【委員】

ちょっと違うかもしれないですけど、その葛巻の人数が多い理由というのは、やっぱり新しい住宅街が増えたからということでしょうか。例えば今、新しくできた駅の裏のウェルネスタウン、多分あそこというのは小学校、中学校それぞれ結構距離があるのですけれども、どこに所属しているのでしょうか。市外から若い夫婦の方々を見附に住みたくするような、やっぱり若い夫婦っていうのは小学校、中学校に通えるところというのが一番気になると思うのですけれども、あそこに住宅街をつくったのであれば、そこに呼び込めるようなちょっと子育て支援に対して、見附市としてもうちちょっといっぱい、いろいろ魅力あるアイデアを出すとか、そういうふうにした方がいいかなと思うのですが、あそのエリアはどこに所属されているのかなと思って。

(他の委員から「新潟小学校です」の声あり。)

【委員】

全部あその家の方、みんな新潟小学校ですか。

【事務局】

新潟小学校で見附中学校区になります。見附中学校にちょっと距離はあるかと思いますが、今町中学校と見附中学校どっちが近いかな、というくらいの距離かと思っています。

【委員】

確かに野球場の方に行けば、新潟小学校に行けますね。

【委員長】

よろしいでしょうか。結構ですので、そういう質問も出してください。それではこの基本方針どうでしょうか。はい、それではよろしくお願いします。

【委員】

ちょっと前提なのですけど、もちろん現状で先ほどお話しに出た見附市が取り組んでいる方針の中で、もちろんいいところもあってという話なのですけど、この資料を見る限りは、こう統廃合を目指す検討ということで今のところ考えてよろしいわけでしょうか。

【委員長】

はい、事務局よろしいですか。

【事務局】

統廃合も一つの選択肢ではあるかとは思いますが、現状のままそういう小規模校が

合うお子さんたちもおられますし、いろんな方がおられますので、現状のままそういう教育を受けられる環境も必要であるというのであれば、そういう感じのところがどこになるかはわかりませんが、残しながらというのも皆さんの中で協議していきたい。必ずもう統廃合しなきゃいけないということではない訳です。いろんな考え方があっていいと思いますので、もちろん今見ていただいたようにものすごく人が減っているというのがありますし、経費がかかる、施設が老朽化しているというのは背景に考える必要もあろうかとは思っています。

その中で、でもやっぱり見附市の子どもたちにとってどういう教育環境が大切なのかというのをまず考えていただいて、その結果として大きい学校小さい学校いろんなパターンが必要ですよね、というのはいろんな議論の中で検討していただきたいと考えています。

【委員】

この資料を見た限り合理的に考えたら統廃合は必ず、それが小規模校を全くなくす、そういう意味ではないですが、例えば3校をどうするかとかいろいろあるかと思うのですが、基本的にはこの資料を見る限りは厳しいのではないかと。今の施設の年数を見ると、このたび見附小学校、それから名木野小学校の改修が決まっていて、そうするとこの二校は使わなきゃいけないというのがありますし、残るところ今町小学校、上北谷小学校、葛巻小学校かな、新しいのは。そうするとやっぱり合理的に考えたらやっぱり収容人数とかもあるのでしょうけれど建物の年数が古いところは優先的にそこが廃校になってしまう可能性が高いのではないかとこのことがありますし、中学校もそうですよね、その辺っていうのは考えた上でいっちゃうのかなって思っているのですけれど。

【委員長】

よろしいですか。事務局お願いします。

【事務局】

ありがとうございます。今ほど言われたようにかなり建築年数が経っている建物があります。もちろん必要であれば直すことも必要ですし、当然直していきたいというふうに考えております。

ただ一方では市の財政もそんなに裕福ではないのでそれも勘案しながらいくとなると、そこに古い学校だということではなくてそこに新しくして集まるという考えもあるでしょうし、そこに残すというのではなくて、まずどの程度の規模が必要なのかとかですね。小規模・大規模いろんな教育環境があるかと思っておりますけれども、そういうのを配置していくことについて、どこということではなくて、どういう環境を目指したいよねっていうのを議論していきたいと考えています。

古いからどうするかとか、そういうことではなくて、まず市の教育環境としてどういうふうに考えてたらいいのかというのを第一に考えていただけたらと考えております。

【委員】

ありがとうございます。教育の環境によっては古くても費用をかけて建て替えを行うことも、実際にそうなら行うという考え方でしょうか。

【事務局】

古いところを直さないで、どこかに集めようとかそういう考えも一方ではあるかと思っています。ただ、新しくしました、けれども数年後には人がいなくなったのでやっぱり統合したいですと、そうすると市として、その直した判断はどうなんだということもあろうかと思っていますので、その辺りも踏まえながら、どこというのは市の方で判断することにはなるかと思っていますけれども、まずはどういった教育環境を目指していきたいかというところを議論していただきたいと考えております。

【委員】

わかりました。ありがとうございました。

【委員長】

はい、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。遠慮しないで質問してください。

私も一委員の立場であればもっともっと言っていると思います。ですが、先ほど委員が少し言われましたが、見附は見附で地域とともに歩む学校作りを進めてきました。それは本当に素晴らしい、県下でも表彰される学校も多い。そんな素晴らしい学校環境だと思います。ただこうやって子どもの数が減ってきたときに本当にこれから先、学校で学ぶ学びの保障ができるのかという問題であるとか、それから学ぶ内容自体も、私も新潟地震を小学校時代に経験した人間ですので、私の頃の学習内容とはやっぱり全然違うわけですし、それからコロナ禍を通じて変わりました。そして社会も変わりましたし、ITの問題もそういったようなものを今後も考えているときに、学校はこれから先どうすればいいのかというのは地域と一緒に考えていけなない。そういうスタンスで統廃合なんかは一つの選択肢としてはあるとは思いますが、そうではなくてそれ以外にもこれから先、学校というところが子どもたちにとってどういう学びの環境をつくれればいいのかということを、この委員会の中で話し合っていきたいということなのです。喋りすぎてすいません。

はいどうぞ、お願いします。

【委員】

今ほど出ていた話題でちょっと関連したので手を挙げました。

ここで数字を見てすごいね、そうなんだねと、ずっと言っておりました。また私は小学校の中でいろんな情報交換するのですけれども、見附市の小学校は本当に素晴らしい活動をしているのですね。それはもう地域の文化というのかな、魅力を本当に引き出した学習をされていて、その地域の文化と言えるような学習環境ですね。だから私もいろん

な学校を見たらうらやましいっていうのをすごく感じています。

それだけに、今後どういう方向に進むのかわかりませんが、仮にその統廃合というのは、なくなるとかというよりも今後やっぱりその魅力が増えてくるとか、文化が広がるとか、なにかそういうプラス方向にうまくいくといいな、なんていうことをちょっと感じながら聞きました。

それ故に次回、今度は市内の学校視察というのがあるのですが、これはどこをどう視察するのか全くわかりませんが、老朽化が進んで古いねというところに着目することもあるのかもしれないけれども教室環境はこんななんだねとか、掲示物見ただけで素敵な文化があるんだとか、何かその学校の魅力とか地域の魅力を見ながら視察ができるといいかなと思っています。

【委員長】

はい、ありがとうございます。はい、今のようなご意見でも結構です。もう時間も、私本当にあの進行下手くそで、いつも時間超過してしまうのですが、いかがでしょうか。

ありがとうございます。手が挙がってくださって嬉しいです。それではお願いします。

【委員】

すみません。だいぶ時間が押している中、ちょっとずれた話になるかもしれませんが、子どもの声を聞くというルールができたそうですね。なので、私は小学生、中学生その他子どもたちの考えとか、今日はせっかく先生のトップの方がいらっしゃいますけれど、実際に日頃、学校でやってらっしゃる先生方、まさに当事者だと思うのですが、その方々の声を何らかの形で反映させる必要はないのかなと思います。

【委員長】

ありがとうございます。貴重な意見をいただきました。

はい、それではお願いします。

【委員】

度々すみません。見附市と同じぐらいの規模の合併を選択しなかった町、県内外問わずですけど、そういった町の状況なんかも今後の委員会とかで教えていただけたらありがたいです。以上です。

【委員長】

はい。という要望ですが、いかがですか。よろしいでしょうか。希望です。

【事務局】

はい。似たような規模の市ですとか、合併しなかった市についての資料もまた提示していきたいと思います。

【委員長】

すみません。次の委員会をお願いします。

【委員】

皆さんからもお話があったと思いますが、いずれ統合するということになるのかなという話の中で、そういった長寿命化という形で、例えばハード面というのも大事なんですけども、人間の、小学生、中学生のもっと他校との交流をする場をですね、小学校の先生同士で今度会いませんかとか、そういうのは難しいと思うので、市の方としてそういった企画を出していただいて、統合というよりもまず人間を触れ合わせるとい、そこについてくる家族たちがまたお話もできるという形で、だんだんと慣れさせるというのが必要かなというように感じました。

【委員長】

ありがとうございました。

交流という視点でもってこれまでも取り組んでこられたとは思いますが一層の工夫が何らかの形でできるのではないかという提案をいただきました。ありがとうございました。

その他いかがでしょうか。一応最後のページまでやってみていただけますか。申し訳ございません。

(発言なし)

【委員長】

最後のページまで通してですが、いかがでしょうか。質問がありましたらお願いします。

はい。初回で本当にあっという間にもう超過してしまいましたけれど、私いつもこういう会で思うのですけれど、せっかく委員として来られたので一言声を出してまたお考えを教えていただければ、ありがたいなと思いますし、そうしていくと次に繋がりますので、ぜひともお願い申し上げます。

次、目が合ってしまいましたけれど、委員さんからお願いします。感想でも結構です。

【委員】

内容を聞いて驚いたのが正直なところですよ。少子化がこんなに進んでいるのだということ、学校で第二小学校とか田井小学校とかで生徒が少ないことは以前から知っていました。ただその学校の特色のいいところもやっぱりすごくあるのでそれと何か地域だったり企業だったりそういうものが一緒に協賛というか残っていく形になりたいなんていう、そういうちょっと最初に載っていた見附らしいというところがでるのがいいなというのが感想でした。ありがとうございました。以上です。

【委員長】

委員、感想をお願いいたします。

【委員】

先ほどお話あった美里町の方々は今のところ把握しているだけで2人ぐらいなのかなと思っています。自分は新潟地区から新潟地区に引っ越した人間なのですが、ちょっと今後育てやすい環境づくりがもう少し必要かなと考えています。以上です。

【委員長】

ありがとうございました。

委員、お願いいたします。

【委員】

いろんな意見を考えながら思うところはたくさんあるのですが、先ほどの委員の子どもの声ということで私なりにちょっと考えたのが、これからの次世代を担う子どもたちもそうですけれど、その子を持つ親、例えば保育園、幼稚園の方たちの声を聞くのも一つかなと。

これからどんな学校になってほしいかというこれからの担う形の声も聞けるようなアンケートだとか、そういうのもあるとこちらもイメージしやすいのかなと思いました。

私もまだ上は10歳、下は8歳、2歳の子がいるので、まだまだこれから見附市の教育に携わることがかなり長いので、そういうことも含めまして私も親の1人として、いろいろと意見を出していければと思います。今日はありがとうございました。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは委員、お願いいたします。

【委員】

今日は第1回ということで、資料をよく見させていただいて、今現状はどうなっているかが非常によくわかりました。一応すいません、仕事上建物の施設関係です。

その辺についてはただ古いから直せばいいってものでもないと思いますので、その辺の今後の利用の仕方とかこれも10年後を見据えた改修方法もあると思いますので。

その辺もちょっとお話できればと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いします。

【委員長】

ありがとうございました。また教えてください。

はいそれではお願いします。

【委員】

本日はありがとうございました。

私も一番の感想は先ほどの委員と一緒に、子どもの数がこんなに減っているのだなというのが結構ショックでした。これだけ減っていったら今後どうなっていくのだろうとか、そういう部分の不安がすごく大きく一番感じました。

今回は学校の配置検討委員会ですけれど、早急にやっぱり子どもを増やすという部分の委員会もなければいけないんじゃないかなっていうことを校長先生ともお話をさしてもらっていたのですけれども、いろんな課題があるのだなというのもすごく感じましたしね。かといって統廃合という話もありましたが、私としては子どもたちにすごくもっと自然の方にも触れ合ってほしいなということを考えると、少なくなっている学校とかの方が自然豊かだったりしている部分もあるので、そっちの方にさっき交流という話もありましたけれど、そういうふうを活用できたりしていけたらお互いにいいなというように感じました。また検討していけたらと思います。ありがとうございました。

【委員長】

はい、保護者の視点でも、それも含めてまた教えてください。

はい、それでは委員お願いします。

【委員】

ありがとうございます。

ええと、そうですね。このまま今ある学校が残っていくとしても、魅力のある学校として、見附市外の人たちにアピールできると、例えば都会に住んでいる方で、ちょっと人数が多くてそういうところがちょっと苦手だなという方たちが、そういう魅力のあるところに引っ越してきてくださったりとか、そういうこともよく最近話題になっていて、長野の伊那とか通知表がなくて時計もなくて、といった学校があったりとか、そういうところにけっこう都会から東京の方たちが来てたりとかするという話も聞くので、そういうふうに外部からの若い人が多くなれば活性化していくのかと思いますし、それでもちょっともう全国的に子どもが減っているの、見附だけに子どもが集まるとは考えにくいので、例えば廃校が一校出たとなったら、その校舎をプラスに考えて、宿泊施設にしたりアート施設にしたりして人を呼ぶ、悲しいことにここで壊してしまう廃校ではなくて、そこを人を呼べる誰でも入れる学校とか大人の学校とか、何かそういうことも一緒に考えていけたら、楽しいかなと思いました。

【委員長】

ぜひまたそれを意見交換のところでも教えてください。貴重な意見ありがとうございました。

委員お願いします。

【委員】

はい。トリになったのが嫌なのですけれども。

いろいろ資料見させていただきまして、皆さんおっしゃっている通り、驚いたなど。子どもの数が減っていて驚いたのと、見附市の基金のないというのも驚いてしまいました。以上です。

【委員長】

いいえ、そういう声を出してください。私も老人なのでもう眠いです、はっきり言って。

それでは大トリに、教育委員会の代表というわけではないですが、学校教育課の佐藤課長、一言お願いします。感想でいいです。お願いします。

【事務局】

今日は大変ありがとうございました。

本当に、それぞれの地域の方、保護者の方、それぞれの立場でやっぱり心配されていること、お考えのこと、今日はたくさん聞けました。

やはり見附市が魅力的なまちであり、子どもたちにとって素敵な学校をどう在ればいいのか、今までの既存の考え方にとらわれないで、新しい視点でいろんな形の学校というのを、またお話が出てくるといいなというふうに夢を持ちました。大変ありがとうございました。

【委員長】

ありがとうございました。はい、そういうふうになんて前向きに検討していきたいと思いまので、よろしく願いいたします。

それでは一応審議の方ですね、これぐらいにしようと思うのですが、先ほどの委員からもお話がありましたが、この会の開始時刻についてです。今回の午後7時がいいということになれば、それでいいのですが、皆さんちょっとお聞きしたいのですが、例えば6時半にしてもいいと、そういう方、それに賛成できる方はどれくらいいらっしゃいますか。6時半でもいいという人。

(大多数の委員が挙手)

【委員長】

わかりました。ちょっと少し考えていただけたらありがたいなと思っております。

はい、それじゃあ今日は、一応委員の皆さんからの声はちょっとずつ上げてもらったということになるかと思いますが、次回は実際の市、これまでの学校の取り組みであるとか、そういったようなプラス面も含めて検討していきたいと思えますし、その前段で視察も予定されているようですので。また事務局の方から案内があるかと思いますが、来れる方は参集していただきたいと思っております。それでは、副委員長から一言をいただく前に一旦、事務局にお返ししなきゃいけないですね。では、お願いします。

【事務局】

検討委員の皆様ありがとうございました。一旦お返しをいただきましたので、時間が押している中で大変恐縮ですが、次第 7 その他 に移ります。

事務局からの事務連絡となります。何点かお伝えいたします。

次回第 2 回委員会は、6 月 27 日木曜日 19 時からの開始。本日と同じこちら大会議室での開催を今のところ予定しております。

(このほか、事務局からの事務連絡の伝達)

事務局からの連絡は以上となります。これによって本日予定しておりました議題、連絡等は以上をもって終わりましたので本会を閉じたいと思います。

閉会にあたりまして、副委員長ご挨拶をお願いしてよろしいでしょうか。

【副委員長】

約 1 時間 50 分、会議本当にお疲れさまでした。

第 1 回目、初めてということで、私もどんな感じになるのか、どんな内容なのか不安でしたけれども、今回いろいろと説明をいただき、お話を聞かせていただき、大変有意義な会議ではなかったかと思います。スケジュールを見ますと 3 月末までに今回も含め 7 回ほどありますけれども、子どもたちのために今後ともよろしく願いいたします。以上です。

【事務局】

副委員長、大変ありがとうございました。

以上をもちまして、第 1 回見附市立学校配置等検討委員会を閉会いたします。長時間にわたりお疲れ様でした。ありがとうございました。

(午後 8 時 5 0 分 閉会)